

防災学習提案ワークショップ

概要

日時：2019年10月8日（水）15：00-16：30

場所：工学部1号館3階スタジオ

参加者数：9名（M2），11名（B4）合計20名

概要：防災学習のコンテンツ及び教材の提案

内容

熊本地震を経験した土木建築学科の学生（M2・B4）が、平成28年熊本地震を振り返り、新入生に提供する防災学習のコンテンツ及び教材の提案を行った。4つの班の議論で共通して挙げられたキーワードは「体験」であった。地震の経験者としてモバイルバッテリーや水の備えなど災害未経験者へのメッセージの録画も行った。

WSの主題①

“防災学習のコンテンツ及び教材の提案”

熊本大学の新一年生に向けた教養、または、土木建築学科の講義で、防災に関する講義を行う場合、あなたが考える防災学習の内容、手法は何ですか？

例えば

- ・起震車を用いるなどの体験型の学習
- ・被害を受けた当時の社員の先輩の講話 など

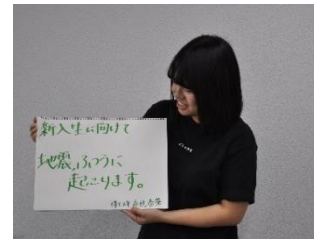
※必ずしもアーカイブを活用したものでなくても構いません。

- I. 各チームで、ブレインストーミング・KJ法を行う。
- II. それをもとにポスターを作成する。
ポスターには、以下の内容を書いてください。
①キャッチコピー、タイトル
②科目名
③内容
④オリジナリティーなどのアピールポイント
- III. ポスターの内容を各チーム3分で発表。


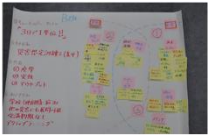


ワークショップの内容



ワークショップの様子



災害未経験者へのメッセージ

	A班	B班	C班	D班
ポスター				
メンバー	廣瀨・吉永・藤坂・末羽・山中	光野・三原・黒田・善備・高松	熊谷・栗田・永迫・阿南・茂田	藤山・光永・竹島・谷口・松尾
キャッチコピー	百聞は一験にしかず	3日で1単位！！	リアリティを発信、伝えたい	この劇は実体験に基づいたものです。
科目名	避難所運営体験学	災害想定訓練Ⅰ（集中）	限界突破シミュレーション	災害疑似体験型学習
内容	避難所体験 →知識・ゲーム →避難所体験	①座学 ②実技 ③アウトプット	（教育）地震の概要を教える一体験談 →（体験）与えられた状況下でどう行動していくか一発信	被災していない人が、被災者から体験をきいたり、自分の足で調査することで災害時の劇をつくり、演じる！！
アピールポイント	知識がある時とない時で他の災害に展開可能 実際に体験してみる、経験してみても初めてわかることがある。	学校（体育館）に宿泊 他の災害に展開可能 受講制限なし アクティブラーニング	教育・体験・発信	劇をする側も、お客さんもみんな学べる！！！！
発表から	・知識がある時とない時でどれだけ違いがあるか感じてもらう ・学生は、運営、避難者のどちらとも体験できる ・知識がないところから始めるのは新しい視点	・防災キャンプ、非常食クッキングなどで避難所の生活を体験 ・アウトプットとして、クロスロードの作成やタイムラインの作成、黒板のハザードマップ作りを行う ・1の部分をIIにして、展開可能 ・受講制限をなくし、受講する学生を増やすことで、リアリティが出る	・うまくいった活動、うまくいかなかった活動を発信 ・経験したあとに、発信する ・発信することで、客観性に繋がる ・多様な視点で考えられる ・継続して行うための工夫が必要	・疑似体験が重要 ・意見交換の場を設けたり、実体験を聞く、災害を写真で振り返る、現地調査に行くなど ・過去だけではなく、今も知ることが重要 ・違う班の人の目も見ることで、多様性が生まれ、客観性が持てる ・発信の形が劇 ・お客さんは高校生でもいいかも

ワークショップの結果